

7月9日（火）

先週から体調を崩し、マスクをつけて学校生活を過ごしています。（周りへの影響も考え、病院で検査もしています。陰性で、どうやら夏風邪のようです。自己管理ができていませんね。）たくさんの子供たちから「校長先生、どうしたの？」と気遣いの言葉をもらっています。「ありがとう。どうやら、風邪をひいたみたいです。みんなも気を付けてね。」と返事をしました。子供たちから“やさしさパワー”をもらって元気が出てきます。

今日は5，6年生が水泳学習の『着衣泳』を行う日でした。天候がとても気になりましたが、昨日に比べ、雲も多く、暑さもまだ大丈夫だったので朝1番から1時間に短縮して水泳学習をすることにしました。私も水着に着替え、プールと一緒に入ることにしました。水温は適温で、日が差していなければ暑さを感じませんでした。「このまま、曇り空のままだといいな。」と思いながら子供たちがプールに来るのを待ちました。

5，6年生は着替えが終わったグループからプールに向かい、タオルを置き、準備体操をして、グループごとにドリル演習を始めます。早く着替えを終えたグループはドリル演習を長く行うことができます。ドリル演習はプールを4つのステージに分け一方通行でそれぞれのステージの課題を順番に行っていきます。プールサイドから子供たちの安全を見守っていましたが、決められた課題を一生懸命に練習している子が多かったです。

全員が一通りの練習を終えた時点で、担当の先生から今日の水泳学習の流れを聞きました。時間短縮、熱中症防止などために、プールの中で子供たちを集め説明をしていました。今日は①泳力テスト ②着衣泳 の2つの活動をするのを聞き、それぞれの活動に入りました。泳力テストでは、何メートル泳げるか挑戦しました。最高25mまで泳ぎました。どの子もしっかり泳ぐことができていました。

泳力テストが終わると『着衣泳』をしました。それぞれが持ってきた服を身に着け説明を聞きました。まずは子供たちには「命を守る勉強」であることを伝えました。衣服を身に着けて水の中に入ることは本来あってはいけないことです。いかに服を着て水の中に入ると危険であるのか体験してもらうことも狙いの一つです。子供たちの安全のためにプールサイドにはいつもより多い監視体制（9人）を臨みました。着衣のまま水の中に入り、ゆっくり歩く。そして泳いでみる活動をしました。子供たちは当然動きにくいことが分かりました。そして、命を守るためにはとにかく『呼吸ができる姿勢を取る』ことが大事あることを学びました。発泡スチロール、ビニル袋、ペットボトルなど用意していましたが、体のどの部分にあてると浮きやすいか体験しました。

最後に、水の事故にあったときは、決して子供だけで助けに行かない。大きな声で大人を呼ぶ。浮きやすいものを投げてあげる。など確認しました。

今年の夏も大きな事故がないように安全に過ごしてほしいと思います。